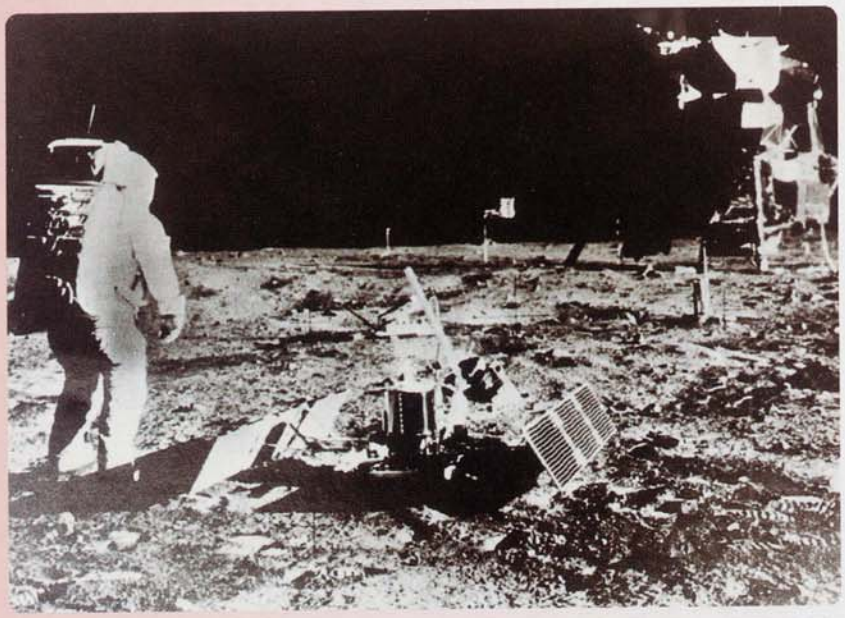
一宮市博物館だより

No.26 2000.3



1969年（昭和44年）アポロ11号月面着陸　中日新聞社提供

2000年 展覧会のご案内

企画展

「20世紀写真展」
5月27日(土)～6月25日(日)

1900年から1999年までの日本および世界の出来事を写真パネルで振り返ります。中日新聞社共催。

1905年(明治37年)
日本海海戦(日露戦争)
中日新聞社提供

企画展

「八王子遺跡」
7月22日(土)～8月31日(木)

大和町苅安賀の八王子遺跡から出土した銅鐸を始めとする出土品を展示し、弥生時代、古墳時代、古代、中世に至る歴史の流れを概観します。

秋季特別展

「孤高の画家 筧忠治」 10月21日(土)～11月23日(木)

萩原町東宮重に生まれた筧忠治(1908―)は、12歳の時父を亡くし経済的にも困難な状況のなかで画家を志し、数回公募展に出品するも、現在まで独学ともいえる画道をひたむきに歩んできました。この展覧会は、自画像の画家として独自な画境を極めた筧忠治の、初期から今日までの画業のあゆみを紹介するものです。

「ノラ 10」

「横顔 3」愛知県美術館蔵

収蔵品展

「くらしの道具―今と昔―」
1月6日(土)～2月18日(日)

歴史を学び始める小学校3年生を主な対象とした展示。明治・大正・昭和にかけての暮らしの様子を、民俗資料を中心に展示します。

作品展

「手つむぎ・染め・織り展」
3月3日(土)～3月18日(日)

平成12年度繊維講座受講生の作品発表会でもある展示会です。同受講生および尾張もめん伝承会員の作品を展示します。

※展覧会の名称、期間等は変更することがあります。

20世紀写真展

5月27日(土)～6月25日(日)

松阪での展示風景
中日新聞社提供

二〇〇〇年、ついに二〇世紀最後の年となりました。今年の一月、今世紀の日本を表す二字熟語に「激動」が選ばれた、と財団法人日本漢字能力検定協会は発表しました。報道によれば二位「平和」、三位「発展」、そして四位は「戦争」であったといいます。どれも二字で今世紀の日本を端的に表した言葉に思われます。それでは今世紀の世界はどのようであったでしょうか。

世界史的見地で二〇世紀を語るとき、二度の大戦ははずせないのではないでしょうか。一般に、第一次世界大戦で帝国主義列強による植民地支配の再構成がなされ、第二次世界大戦後には植民地は解放された、あるいは独立国となったといわれます。第一次大戦後はソヴィエト社会主義共和国連邦の成立もみました。そして第二次大戦を経て、ソヴィエトとアメリカの冷戦が始まります。このソヴィエト社会主義共和国連邦という国家形態が存在したのは、一九一七年のロシア革命から一九九一年の「独立国家共同体」設立までの七四年です。今世紀に始まり、今世紀に完結したという意味で、二〇世紀を表すひとつのイデオロギーといえるかもしれません。

この二〇世紀のソ連のように、二十一世紀に予想される大きな枠組みとしてEU（欧州連合）の統合があります。さまざまな事象にボーダーレスが進む今日、EUは地域間統合のひとつのモデルになっています。しかし必ずしもひとつのヨーロッパが歓迎されているとはいえません。現にヨーロッパの中でもスイスやノルウェーのようにEUへの加盟を望まない国もありますし、構成国の中でも加盟に反対の世論が強い国もあります。統合は常に、そこから独立しようとする動きも内包するようです。あるいはEUも二十一世紀に完結してしまうものとなるかもしれません。

思想や文化の面では、物質主義からの転換が唱えられるようになっています。欧米から取り込んだ既成の価値観の行き詰まりは、アジア・アフリカ・南米などの非欧米といえる地域の伝統的な思想・文化へと目を向けさせました。環境問題の打開策や欧米の合理主義にない精神性を、これらの地域の伝統に求める動きもみられます。しかし現在これらの国々の多くは、独自の文化や伝統を守るばかりでなく、先進国と呼ばれる国々が辿った道と同じ道を歩み、経済的な成長を目指しています。それは二十一世紀にどのように評価されるでしょうか。

わずかばかり世界の様子を概観しましたが、それでは二十一世紀に日本はどのような国になっているのでしょうか。新世紀を迎えるにあたって、本展覧会が今世紀を反省する機会となれば幸いです。

本展覧会は中日新聞社との共催で、二〇世紀の日本と世界の動きを写真で振り返ってみるものです。

1999年 回想

春季企画展

「趣味の絵画と焼き物あれこれ」

4月24日～5月30日

骨董屋の店先をイメージした展示となりました。この企画展では会期中に展示解説を2度行いました。

展示解説の様子

収蔵品展

「尾張の民具」

7月24日～8月31日

この展覧会では観覧者に実際の展示を体験してもらうコーナーを設けました。その展示をポラロイドカメラで撮影し、体験者に写真をプレゼントしました。

特別展・佐藤一英生誕百年記念

「河井寛次郎と棟方志功展」 10月9日～11月21日

生誕日(10月13日)に先立ち、6月23日には絵入りハガキ「佐藤一英のふるさと・一宮」が、会期中には一英のふるさと切手の発行や、顕彰碑の除幕もあり、99年は一英の生誕百年を記念する行事が多く行われました。

収蔵品展

「くらしの道具―今と昔―」

1月8日～2月20日

市内の小学校3年生が見学するこの展示には、今回はじめて見学した8校を含め、13校もの市外の小学校が見学に訪れました。

作品展

「手つむぎ・染め・織り展」

3月5日～3月20日

会期中毎日2回、手つむぎと織りを体験してもらう機会を設けました。12日には「糸づくり大会」も行われました。

平成11年度特別展

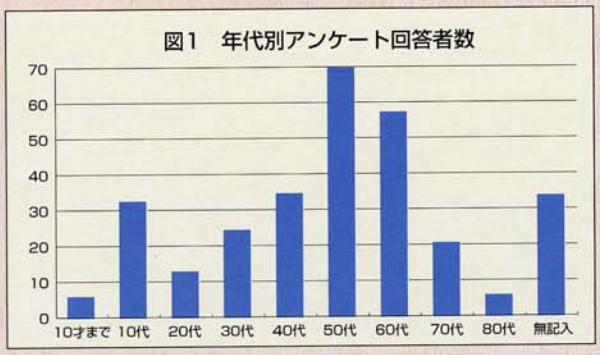
河井寛次郎と棟方志功展を振り返って

本特別展は郷土の象徴派詩人・佐藤一英の生誕百年記念として開催されました。展覧会開催期間は三七日間で、会期中の総観覧者数は、六〇三二人でした。内訳は一般五七一〇人、高校・大学生八二人、小学・中学生二四〇人です。小学・中学生が意外に多いのは、第二・第四土曜日の観覧料無料の日を利用しているためのようです。以下、本特別展を回収したアンケートを元に振り返ってみたいと思います。

観覧された方のうちアンケートにご協力していただけたのは三〇二名で、その結果を「アンケート結果一覧」に示しました。三〇二名の内訳を年代別にしたのが図1です。

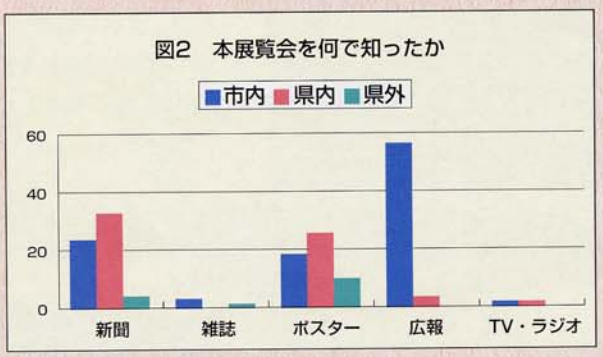
図1から、五〇～六〇代の方を中心にアンケートにご協力いただけたことがわかります。これはおそらく観覧者層の中心も反映しているといえるでしょう。

アンケートにお答えいただいた観覧者のうち、市内の方はやはり大半が広報で本展覧会のことを知ったようです（図2参照）。新聞や美術館のポスターで情報を得て、富山県や福井県からきてくださった方もいらっしゃいました。遠いところでは島根県や北海道からのお客様もいらしたようです。



本特別展をどのような広告媒体で知り得たかという質問に対し、「その他」の回答の中で多かったものが、「友人・知人からの紹介」いわゆる口コミでした。「その他」の回答のうち実に三割を口コミが占めています。

アンケート上の感想を「よい」、「わるい」、「その他・無回答」に大別すると、「よい」が五〇パーセントを占め、概ね好評といえるようです。



アンケート回答者を男女に分け、年代別に集計したものが、図3・図4です。男女別にしてみると、観覧者の中心世代は六〇代の男性と五〇代の女性であったようです。

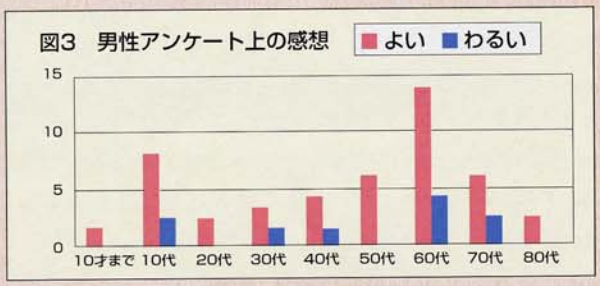
次に実際の感想のいくつかを紹介します。

- 館の位置がわかりづらいので大きな看板を出して欲しい（二〇代女性）
- 展示室は広くないが、作品が多くぎゅっと締まった展示内容で興味深く見れた（二〇代男性）
- 人名ルビがほしい（四〇代女性）
- 寛次郎の作品に心惹かれた。一英をよく知ることが出来た（五〇代女性）
- 月曜開館を（六〇代男性）
- 料金が手ごろで見ごたえもあった（六〇代女性）
- 低い位置の説明文（キャプション）の字が読みづらいので字を大きく（七〇代男性）
- 一英を訪問したことがあり、興味を持って拝観した（八〇代男性）

多く寄せられた意見に「交通の便が悪い」、「もっと広告を出すべき」の二つがあり、検討の必要を感じます。

これらアンケートで頂いたご意見は今後の博物館活動に活かしていきたいと思います。

本当にたくさんのご来館とアンケートへのご協力、ありがとうございました。



アンケート結果一覧

性　別	
男性	112
女性	186
その他・無記入	4
区　分	
小・中学生	36
高校・大学生	6
一般	242
その他・無記入	18
住　所	
一宮市	157
県内	114
県外	28
その他・無記入	3
広　告	
新聞	59
雑誌	4
ポスター	55
市広報	59
TV・ラジオ	6
その他	119
人　数	
1人	123
2人	123
3人	31
4人	5
5人以上	18
その他・無記入	2
アクセス	
自家用車	169
電車	62
バス	4
タクシー	4
自転車	49
徒歩	11
その他・無記入	3
来館回数	
はじめて	118
2回	39
3回	25
4回	14
5回以上	104
その他・無記入	2

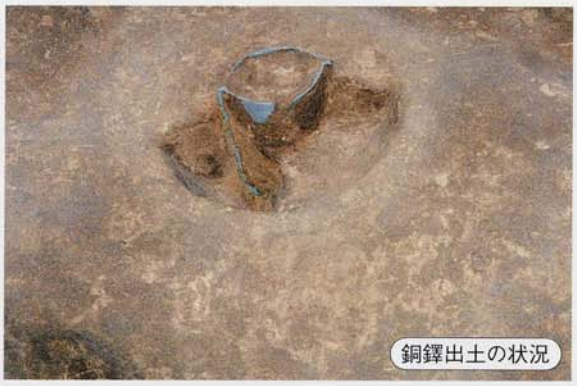
次回の展示

企画展「八王子遺跡」

平成12年　7月22日(土)から8月31日(木)まで

1995年から1997年まで愛知県埋蔵文化財センターによって実施された東海北陸道関連の発掘調査で、大和町苅安賀の八王子遺跡においては、銅鐸の発見をはじめとして、数多くの成果があがっています。そして、現在報告書作成に向けて遺物の整理作業が行われていますが、こうした遺物整理の過程で、銅鐸の舌が新たに見つかったことは、耳目に新しいところです。

八王子遺跡からは、弥生時代、古墳時代、古代、中世・戦国時代、の遺物が出土しており、長い期間にわたって人が住みついていたことも特徴の一つであり、それぞれの時代に、新しい発見が満ちています。


銅鐸出土の状況

環濠の調査

今回の展示は、愛知県埋蔵文化財センターの協力を得て、この八王子遺跡から出土した、弥生時代、古墳時代、古代、中世・戦国時代の遺物を展示し、八王子遺跡周辺の歴史の流れを概観するものです。遺物の整理作業の過程で判明してきた新たな発見・事実など、最新の情報を含めて展示しますので、ご期待ください。

■講演会　と　き／7月30日(日)午後1時30分から
テーマ／「八王子銅鐸の謎」
講　師／ 愛知県埋蔵文化財センター　　樋 上　昇 氏

『一宮市元屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ』刊行

検出された方形区画

「一宮市埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ」として『一宮市元屋敷遺跡発掘調査報告書Ⅲ』を刊行いたしました。

元屋敷遺跡は、一宮市の南部・丹陽町伝法寺に所在し、昭和36年に緊急発掘調査が実施され、弥生時代、古墳時代、中世の遺物が出土しました。そして古墳時代の遺物のうちの土器群は、「元屋敷式」と呼称され、長く東海地方の標識遺跡となっていました。

そして、平成8年から9年に、伝法寺地区の区画整理事業の事前調査で、この遺跡の発掘調査を行いました。その調査成果のうち、中世・戦国期の成果をまとめた報告書を刊行するものです。

希望される方には1冊700円で博物館で頒布いたします。

また、左記のとおり、文化財関係の報告書を博物館で頒布しています。ご希望の方は博物館までおたずねください。

一宮市文化財調査報告

3.一宮の民俗	昭和50年	1,000円
4.丹陽町池之上遺跡発掘調査報告	昭和54年	300円
5.一宮の民家	昭和54年	1,000円
6.樫の木文化資料	昭和55年	400円
7.一宮の民具	昭和55年	800円
9.一宮の石造遺物	昭和60年	1,000円
11.市内遺跡発掘調査概要報告書	平成４年	900円

一宮市埋蔵文化財調査報告

Ⅰ 法圓寺中世墓遺跡発掘調査報告書	平成７年	800円

MUSEUM NEWS 博物館ニュース

佐藤一英 ふるさと切手の発行と詩画碑の除幕

1999年10月13日に生誕百年を迎えた、郷土の詩人・佐藤一英のふるさと切手が、同日発行されました。また、一英の顕彰碑が館内に設置され、10月17日に除幕されました。この顕彰碑は、地元の一英関係者らが募金をもとに建立したものです。

秋季特別展講演会

11月7日に宇賀田達雄氏（（財）棟方板画館理事）による講演会がありました。演題は「志功と寛次郎・一英ー「大和し美し」前後ー」。寛次郎との出会いが志功の作品にどのような影響を与えたか、興味深い講演となりました。

尾張平野を語る

今年度は「苅安賀村にみる戦国から江戸期への移り変わり」という副題で、苅安賀にスポットを当てた講演を行っていただきました。開催日は2月6日、13日、20日の3日間で、写真は2月6日の浅井厚視氏の講演「掘り出された中世の城下町ー苅安賀遺跡を中心にー」の様子です。

焼き上がったかな?!

台付甕による炊飯

博物館講座「土器をつくろう」

12月3日、4日、19日に、小学校高学年児童とその親を対象にして実施しました。

今回の参加者は親子4組8名でしたが、それぞれ親子で相談しながら、野焼き用の粘土を使って、様々な形の土器を制作しました。その後、博物館で約2週間乾燥させたあと、妙興寺の境内で野焼き作業を実施しました。野焼きの日は、結構寒い日でしたが、全員で協力して土器を焼き上げました。割れた物はほとんどなく、みなさん満足の表情で土器を持って帰りました。

また、野焼きの合間に、シイの実を使ったクッキー作り、台付甕による赤米の炊飯などを行い、試食しましたが、みんな台付甕の熱効率の良さにびっくり!していました。

記念撮影パチリ

2000年 講座のご案内

こどものための尾張歴史講座

小学校高学年から中学生を対象に、尾張地方の文化的特徴を紹介する講座。

7月29日(土)博物館へ行こう!～博物館探検～
8月 5日(土)繊維のまち―一宮
8月12日(土)川とくらし
8月19日(土)考古学入門
8月26日(土)いちのみや!遺跡めぐり

尾張平野を語る 5

他地域の縄文晩期の遺跡と比較しながら、馬見塚遺跡の特徴を明らかにする。

12月 3日(日)　文化庁文化財保護課主任調査官　岡村　道男氏
12月10日(日)　愛知県教育委員会　野口　哲也氏
12月17日(日)　田原本町教育委員会文化財保存課　豆谷　和之氏

いずれも午後1時30分より

繊維講座(通年)

一宮地方は、江戸時代後期から明治前期にかけて、結城縞(ゆうきじま)や桟留縞(さんとめじま)などの縞木綿の生産で有名でした。本講座は、この縞木綿の歴史をたどるとともに、その当時の技術の保存及び伝承を目的とします。通年計20回の講座で、年度末には作品展を開催します。

古文書講座(通年)

本講座では博物館に保管されている市内の近世文書をテキストに使用し、古文書の読解力を養うとともに、江戸時代の民衆の生活の様子を探り、地域社会のあり方を明らかにすることを目的としています。月1回開催で、5月から2月までの計10回の講座です。

※各講座・講演会とも、日時・募集の詳細につきましては広報を通じてご案内いたします。

利用案内

名鉄名古屋本線【妙興寺】駅下車徒歩7分
〒491-0922　一宮市大和町妙興寺2390
TEL 0586-46-3215　FAX 0586-46-3216

【観覧料】(常設展・聴講料含む)
一般=200円(160円)　高・大生=100円(80円)
小中生=50円(40円)　＊(　)は20人以上の団体料金

【休館日】毎週月曜日、休日の翌日、年末年始

【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

※第2・4土曜日は小・中学生無料。
※65歳以上で、一宮市発行の「老人医療受給者証」あるいは「シルバー優待証明カード」持参の方は無料。

一宮市博物館だより第26号
発行日……2000年3月31日
編集・発行…一宮市博物館
印刷……サンメッセ株式会社